

田和山の森から

10月から午後の作業

10月から、いつものように午後1時30分からの作業です。(第3週は土曜日の午前9時から)秋になり、暑さも和らぎいくぶん働きやすくなりました。それぞれの体力に合わせ、無理の無いように作業をしましょう。

松愛会の作業計画

松愛会松江支部(松下電器OB会)では、市立病院入口の向かい側の森を整備しています。毎月第3週の土曜日を活動日として有志が集まり、整備活動をしています。お蔭でずいぶん明るく綺麗になりました。

今年は10月で作業を終え、来年4月よりを再開する計画だそうです。



整備された病院入口向い側



仕事を終えお茶タイム

田和山の葉っぱを集めよう!

先日の三者打合せの際、田和山サポートクラブ会員の遠藤律子さんから提案がありました。

遠藤さんは11月8日~11日、エコギャラリー新宿(東京)の展示ホールで「幸染展」を開催すること。今後も継続して開催するので、田和山にあるいろんな葉っぱを集めて染色の材料にしたい。タベストリーなどに商品化し、田和山の草花として広く宣伝したらどうか?との話でした。

作業時に見つけた葉っぱを持ち帰り、新聞紙にはさみ保存しておけばよろしいです。一年中いつでも利用できますので、採取をお願いします。(詳しくは23-6336までお問い合わせください。)

9月の作業



精米所近辺の竹の伐採



フェンスの沿いの整備

田和山の樹木 第44回



里山の秋を彩る樹木の代表の一つが、ハゼノキです。ハゼノキはウルシ科の落葉樹で、鮮やかに紅葉することから「樺紅葉(はぜもみじ)」として秋の季語にもなっています。童謡「ちいさい秋みつけた」では主役の一つとなっています。

田和山にも直径50センチを超える大木のハゼノキが、遊歩道と市道の間の斜面にあります。

ハゼノキは、原産地は東南アジア、インドですが室町時代以降に栽培のため持ち込まれた樹木です。ハゼノキの果実から採取、製造する木蠟(モクロウ)は江戸時代の後半には、藩の財政を豊かにする作物として奨励されていました。松江藩も例外でなく、木綿、朝鮮人参と並んで盛んに生産されていましたが、木蠟が衰退する中で、野生化したと考えられています。

表面は濃い緑色で光沢がありますが、裏面は緑白色で葉脈の網目がよく見えます。表裏ともに毛がない点で、日本に古来自生するヤマハゼと区別できます。

ヤマウルシとも近縁で、いずれもかぶれを起こす樹木ですので注意が必要です。

写真上が田和山のハゼノキ、右が葉の表(つやのある緑)裏(白く見える) 竹下記

今後の作業予定

10月6日(金)13:30~、13日(金)13:30~、21日(土)9:00~

27日(金)13:30~、

11月3日(金)13:30~、5日(日)13:00~記念行事準備14:00~記念式典

10日(金)13:30~、18日(土)9:00~、24日(金)13:30~

